

会派の意見

3月定例会を振り返って

自由民主党・中道の会

桑名市長、初めての当初予算案

我が会派は昨年市長に要望と提言を提出しており、期待を抱いての予算審議となりました。代表質問では、本市の急激な少子化と人口減少を大変憂慮していると申しましたが、市長も同様の認識であることを表明され、その対策に力点をおいた予算を編成されました。主に期待する政策は次の3点です。

子ども医療費助成制度が中学3年生まで拡充されました。これは市長が選挙戦で訴えてきたことでもあり、子育て世代をはじめ市民の方々の期待も高く、市政が変わったことを実感できるものです。

事前復興まちづくり計画策定事業は、我が会派の要望と提言で早期策定を求めているとおり、本市にとって極めて重要な事業であります。住民の理解を十分に得ながら、進めていただくことを期待し

ております。

厳しい財政状況下において税外収入を確保するため、ふるさと納税のさらなる獲得を目指し、財産政策課内にふるさと納税推進室が新設される予定です。年間で10億円の確保を目標にしておりますが、50億円を目指す意気込みで取り組んでいただきたいと思います。

本市財政は、令和6年度から8年度の3年間で87億円の収支不足が見込まれており、大変厳しい状況は依然として継続しております。事業のスクラップやさらなる税外収入の確保、一方では経費の削減を念頭に、取り組んでいただきたいと思います。

市民クラブ

桑名市長にとって初めての新年度予算審議となったが、予算案に選挙公約に掲げたスクラップ・アンド・ビルドに取り組む努力が足りなかったことや、3月議会に示すと約束していた西敷地問題についても「時間がなかった」を理由に先延ばしとなったのは残念です。市民の関心の高い問題は、執行部からの提案の是非を審議するだけでなく、議員主導の議論が不可欠です。

休業中の国民宿舍桂浜荘の将来

は常任委員会で説明があったが、これも議会全体で議論していく課題であるように思います。

能登半島地震は高知市にとって他人事ではありません。特に朝市の火災での消防の初期対応や上下水道の長期にわたる使用制限、加えて避難生活でのトイレの問題など、今後の震災対応で学ぶべき課題が少なくないと考えます。

日本共産党

市民運動と論戦で中学生まで医療費無料化・西敷地整備など実現へ

2024年度当初予算には、日本共産党が市民と共に署名運動など長年取り組んできた子どもの医療費無料制度の拡充など子育て支援策の新增設や、災害や地球温暖化対策、市道・河川等の生活密着型予算の増額が盛り込まれました。また、国民健康保険や介護保険は、日本共産党の論戦で運営基金活用などにより保険料が初めて据え置かれ、低所得層は軽減が図られることから、それぞれ賛成しました。ロープが張られたままの西敷地は広場として整備する方向が示され、歓迎するものです。

政治資金規正法に係る疑惑解明を求める意見書など3件を提案しましたが、賛成少数となりました。

公明党

桑名市長の当初予算

令和6年度の当初予算は、国や県からの財源を活用して、桑名市長の公約実現と人口減少などの課題解決を目指した編成となりました。特筆すべきは、公明党が求め、市長公約でもあった「子ども医療費助成」が中学生まで拡充されたことで、子育て世代にとって大きな支援となるものです。

また、がん治療中のアピアランスケア支援も始まり、住宅耐震化推進事業も拡充されます。これらのことは、市民の皆さまの命と安全を守る重要な事業です。市議会公明党は、議案に賛成の立場から、これらの重要な事業が継続されるための財源の確保への努力と予算執行の適正化に係る指摘等を含めた内容で討論を行いました。

参政党

市民の皆さまの声を市政にお届けする手段の一つとして請願があります。これまで10以上提出しましたが、残念ながら採択されるに至っていません。門前払いだけでなく常任委員会に付託をされるだけでも意義のあることだと考えています。